津島型町屋住宅モデルプラン提案　―　戸外の通り庭を共有する町屋群　―

設計主旨

津島型町屋の外観の特徴は、「尾張型町屋」が中心になり、それらが直接通りに面して建ち並ぶ。そして町屋と茶の湯が融合する町衆文化が津島の町屋の特徴のひとつで、通りに対して表は目立たず内に意匠をこらすといった町衆の見識が建物に現れている。

時代の変遷とともにこれらの要素の中に空間機能を変えた車の存在や、木造以外の素材も現れ過去の均質な町並の中に空地（駐車場）が生まれ、新しい要素も入り込み町の景観が変わりつつある。

本町筋の魅力ある特性を損なうことなく車をはじめ、かわろうとする要素を取り込む将来の生活を予見する提案とする。

駐　車
外部からの来場者には本町筋周辺の駐車場を用意し、住民の駐車場は敷地内に確保する。表通りから見えないように町屋の中に車を取り込む。

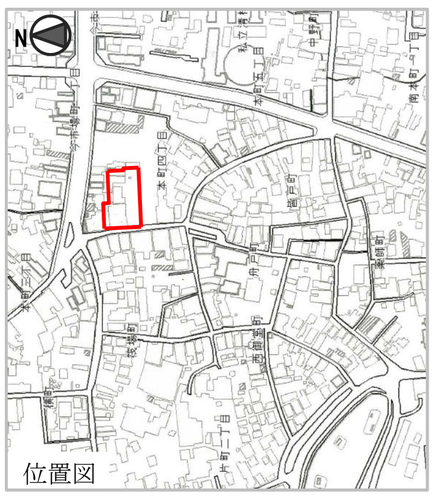
町屋群
津島の街並みの特徴は瓦葺平入りの建物がそれぞれ独立しながら密集し建ち並ぶ。周辺と相互の関係を持てば、ともすれば町屋群の中に埋もれてしまう空間に機能と広がりと魅力が生まれる。

通り庭
町屋の特徴に通り庭がある。これを戸外の半私的空間とすることで、より多くの機能を持ち、多くの住民に寄与する。

路　地
奥に長い町屋は災害時に二方向避難が困難になる。建物間の空地を避難兼用の路地とする。

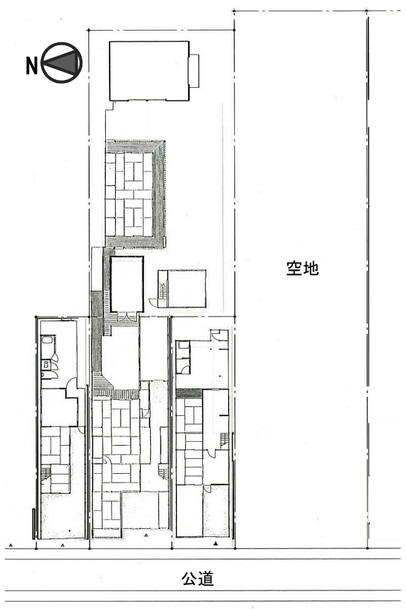
定期借地権
奥に長く敷地形状が不整形な土地や、利用されていない土地などを借り受け有効利用を図る。

省ＣＯ２
クリーンエネルギーの時代を迎え、創エネとパッシブデザインとする。



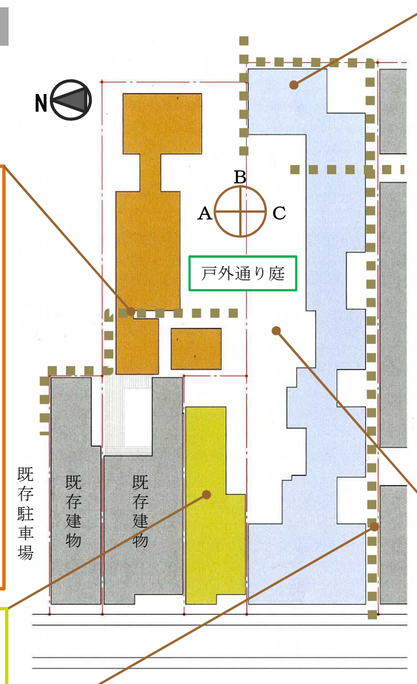
位置図

既存建物立面図　Ｓ＝１：４００



既存建物平面図　Ｓ＝１：５００

配置図　Ｓ＝１：５００



既存建物の保存改修
既存の町屋を現代生活で利用する場合、一般的には駐車場を別の敷地で借りるか、通り沿いを車庫スペースとして改築するケースがある。ここでは、隣接地の通路を使い自敷地奥の空地に駐車スペースを配置することにより、表通りに面して店や事務所など間口いっぱい使っての営みと、軒を連ねる町並景観の保全を可能とする。そして、敷地奥へ人と車の動線がうまれ、これまで利用されていなかった既存の離れや蔵などを居住者以外の人達が利用できるようになる。これらの建物は住居の他、店舗や工房、事務所などに改修して再利用を図る。隣地の通路を使用する一方で、既存の大木のある庭空間を隣地の戸外通り庭の景観づくりに寄与し、その景観を共有する。

既存建物の増改築
南に配置される隣地の戸外通り庭の動線と空間を利用する主旨で増改築をおこなう。駐車場を奥に確保すると共に、戸外通り庭からの日照や風を取り込むよう居室と庭を配置する。隣地の通路を利用し日照通風を得る一方で、隣地の通り庭沿いの壁面を改修した景観と坪庭景観を隣地に提供して、隣地の「戸外通り庭」を取り囲む景観づくりに寄与し、その景観を共有する。

新築の建物
津島の一般的な町屋の間口は、「津島市町屋建築実態調査報告書（１９８８年）」によると３間から７間が多く、ここでは６間（３間敷地の場合２宅地分）で計画する。

表通り沿いは、町並景観が連続するよう２階建て下屋庇を持つ形態とし、「戸外通り庭」へ通じる進入部は建物１階にある。奥に広がる「戸外通り庭」沿いの建物は、表通り沿いとは違った景観が広がる。木格子のない大きな窓やドア、現代生活に合せた階高や建物高さ、木や塗壁といった自然素材を使いながら生活・活動・営みの場に合ったセミプライベート空間を個性的につくる。

建物は２階建ての住職が混在する用途とし、１階は主に店舗や工房や事務所など人を迎える用途、そして２階は住居としている。表通り沿いの２階の一部は居住者が利用できる共用の縁で、コミュニティの場所とする。表通り側と戸外通り庭側の戸は季節で楽しめるよう開放可能で、秋祭り時には表通り側の格子を開放して山車のねり歩きを迎えながら住民達のパーティも想定する。

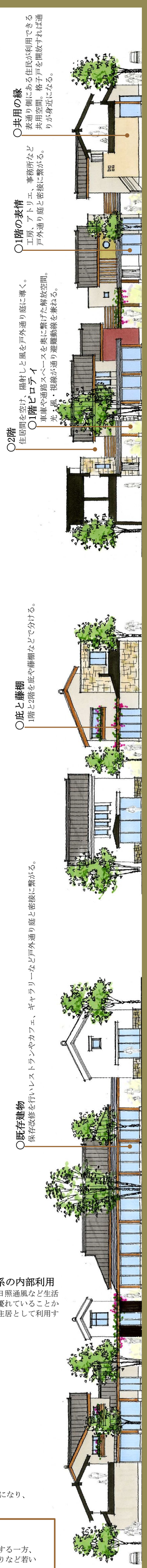
戸外通り庭
町屋群の中央にあたる新築建物の敷地内に、人と車の動線を兼ねた「戸外通り庭」を配置する。町屋群の住民及び来訪者が利用する。建物と庭に囲まれた人と風と光が通る石畳の中庭空間は木々で囲まれ、樹木の少ない表通りの町屋景観とは異なり、住居としてあるいは人が溜まる場所として潤いを持つ。

路地
町屋の敷地形状は奥が深い特徴がある。災害時の避難を考えると表通りへの避難のみでは不十分で、敷地奥からも避難できることが望ましい。隣地間の建物を７５㎝ずつ後退すれば合せて１．５ｍの空地を生む、または、片側１．５ｍ後退してこれを繋いで路地とする。路地は災害時に避難路の役割を担うほか、建物間の適度な離隔はプライバシー確保や室内への光や風の導入など生活環境向上に役立つ。また、路地は生活動線として利用でき、路地のある景観はまちづくりの魅力の一つになる。

配置図兼１階平面図　Ｓ＝１：１５０

スケッチ

２階平面図　Ｓ＝１：３００



立面図　―　表通り
柱や貫、長押を外部に現し黒漆喰壁など津島の町屋の形態や色彩の特徴を踏襲しながら、可変性を持つ格子戸や、通りを彩り季節感を感じる花木「市の花・藤」が咲く藤棚や窓辺に花を飾る設えを施し、伝統的意匠に津島の花や樹木を加えた景観とする。

立面図　―　表通り　　Ｓ＝１：１５０

新築建物立面図・断面図　―　戸外通り庭側
表通りの落着いた伝統デザインから生活・活動・営みの場の空間デザインに変化する。
１階と２階を分ける意匠や、庇や藤棚など軒下空間づくりは現代の素材を使いて踏襲する一方、中が視認できる大きなガラス窓や色彩の異なる明るい色調の壁、鴨子のない下見板張りなど若い世代が入居し易い現代の長屋景観とする。